

質問内容(概要)	講師からの回答(要約)
トランスジェンダーになって、今までと変わったことは何でしょうか？	トランスジェンダーは「なる」「ならない」ではなく、そこにある自分を見つめた結果であると思います。気持ちの面で話すと、私は性別適合手術を受けて、戸籍も変えることができ「やっと一息つけたな」と思いました。性別適合手術や、ホルモン治療、異性装等、人それぞれどこで一段落つくのかは違うと思います。
自分が望んでいることを除いて、(性別によって)周りから求められる役割にどう向き合ったり折り合いをつけていますか？	自分にも言い聞かせていますが、「そろそろ二択主義をやめていきませんか？」ということをよく話します。男女というだけだと、どうしても性役割で何かを選んでしまう。法律の性とは別に、性のあり方はグラデーションで、男と女ではなく、自分がどこにあてはまるか。性別で、というよりも、身長や体重など、それぞれの特性に合わせて、役割を分けることが、平等につながると思います。いろんな平等を作っていく、「男だから」「女だから」にとらわれないでいけるといいと思います。
軽率なアウティングが、どれほど当事者を苦しめるか。	当事者に“了解無く”広めてしまうことが“アウティング”であって、伝えられた側が、「色々大変そうだから気を配ってあげよう」と良かれと思って広めてしまうこともあります。自分の知らないところでどんどん広まってくると、違ったことが伝わったり、曲解されてしまうこともあります。人によっては、人と集まるのが怖くなったり、外出すら出来なくなったり、人と話せなくなったりしてしまうこともあります。実際に起きたことで、友人の自殺未遂などもありました。“アウティング”はそれくらい“してはいけないこと”と気を付けていただきたいです。性的指向や性自認などを、誰かから伝えられたら、傾聴して、共感してもらって、自分事として一緒に考えながら、受容してほしいです。
にじいろ特命大使として活動してきた中で、印象に残っていることはありますか？	小中学校での授業が印象に残っています。子どもたちと一緒に考えていく授業で、個性がとても大事だよという話をしています。小学5年生くらいからLGBTやトランスジェンダーについて、そういう言葉があるということだけでも知っておくだけで、悩んでいる子が今後の自分自身について考えるきっかけになればと思います。個性を大切に考える考え方がやさしい社会が広がっていったら、トランスジェンダーもそういった個性の一つとして受け入れられていければと思います。
学校ではどんな取り組みがあればトランスジェンダーに悩む子ども達の助けになるとおもいますか？	当事者が悩みを相談する順番で多いのが、友人が最初、次が先生のパターン。一番相談しづらいのが親で、とても難しいです。学校では、専門的な知識があって、腰を据えて対応出来る養護教諭の先生が相談に乗ってもらえると良いと思います。

<p>トランスジェンダー当事者として、今一番、社会に対して求めたいと感じることは何ですか？</p>	<p>“やさしい社会”をつくっていただきたいです。その上で、“まずは存在を知る”ということが一番重要だと思います。トランスジェンダーに限らず、障がいの問題や、人種の問題や、病気の問題など色々あります。そういう人たちがいるということを知っていると、支援ができます。仮に、トランスジェンダーの私が被災したとしたら、髭などが伸びてきてしまう。知らない人から見たら男なのに、女性用トイレに入っているように見えてしまう。でも、トランスジェンダーの人がいるということを知っていれば、その時に「もしかしたら」という考えが及ぶかもしれない。感情的な部分も和らぐかもしれない。知らない、また別の見方になってしまう。知って、頭の片隅に入れて、何かあった時に思い出せるようにしておいて欲しいと思います。</p> <p>(参考)</p> <p>性的指向および性自認を理由として私たちが社会で直面する困難のリスト(第4版) 一般社団法人 性的指向および性自認等により困難を抱えている当事者等に対する法整備のための全国連合会(略称:LGBT 法連合会)発出</p>
---	--